

夏と映画 - 上映会・映画大学 -

7月例会は『マルタのやさしい刺繍』

例会のお知らせ



(C)2006 Buena Vista International (Switzerland)

名称 / 第 43 回例会 『マルタのやさしい刺繍』

日時 / 7月9日(木) PM2:00~、PM4:20~、

PM6:40~

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

受付 / 入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。

入会手続きを行っていない方は、受付で 4 箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

【例会作品データ】

タイトル / マルタのやさしい刺繍

監督 / ベティナ・オベルリ

出演 / シュテファニー・グラザー、ハイジ・マリア・グレスナー、アンネマリー・デューリンガー、モニカ・グブザー、ハンスペーター・ミュラー＝ドロサート

データ / 2006年、スイス、89分、ヒューマン / コメディ

作品紹介 / スイスの小さな村、トループ村に住む 80 歳のマルタは、最愛の夫に先立たれ生きる気力をなくし、意気消沈しながら毎日をただ何となく過ごしていた。そんなある日、彼女は忘れかけていた若かりし頃の夢、“自分でデザインして刺繍をした、ランジェリー・ショップをオープンさせること”を思い出す。しかし保守的な村では、マルタの夢はただ周りから冷笑され軽蔑されるだけ。それでもマルタは友人 3 人とともに夢を現実のものとするために動き出す。スイスの伝統的な小さな村に広がる、夢に向かって頑張るマルタと彼女を支える仲間たちの夢と希望の輪。マルタの刺繍が、

人々の心をやさしくあたたかく紡いでゆく?。

2007年、大阪ヨーロッパ映画祭で上映され、老若男女問わず大反響を得た『マルタのやさしい刺繍』。変化を恐れるのではなく、それをチャンスと受け止めて新しい一歩を踏み出すことにより、成長していく人々の姿を描きだした、勇気と希望と元気を与えてくれる、最高に心あたたまる物語だ。最愛の夫の死を乗り越えて再び夢に向かって挑戦していく 80 歳のマルタの姿は、思わず応援したくなり、観終わった後にやさしくて幸せな気持ちになれるだろう。(オフィシャルサイト解説から抜粋)

7周年記念上映会「火垂るの墓」

2005年の『父と暮せば』から始まった夏の主催上映会。今年は、昨年度に引き続き文化庁の助成(平成21年度芸術文化振興基金助成事業)を受けて加古川総合文化センターを会場で開催します。

作品の『火垂るの墓』は、野坂昭如原作で、高畑勲監督のアニメが知られているが、一昨年に加古川町本町のニッケ社宅をはじめ兵庫県でオールロケをした実写版が完成し、昨年に公開された。

加古川シネマクラブとしては、加古川でのロケが行われた作品でもあり、多くの人に観ていただきたいと考えています。特別ゲストとして日向寺太郎監督をお招きしてお話を伺うことになっています。



名称 / 7周年記念上映会 『火垂るの墓』

記念講演 日向寺太郎 監督

日時 / 2009年8月23日(日)

上映会は、AM10:30~、PM1:15~

特別講演は、PM0:15~PM1:00

場所 / 加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩 10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北へすぐ)

料金/加古川シネマクラブ会員 800 円、一般 1,200 円、子ども(小学生~高校生)500 円、60 歳以上及び障害者 1,000 円。(非会員はチラシ割引などをご利用ください)

【作品データ】

タイトル/火垂るの墓

監督/日向寺太郎

原作/野坂昭如

出演/吉武伶朗、畠山彩奈、松坂慶子、松田聖子、江藤潤、高橋克明、山中聡、池脇千鶴

データ/2008 年、日本、カラー、1 時間 40 分、ドラマ・戦争

【物語】1945年6月神戸全域を襲った空襲で病身の母を亡くし、父は出征したまま連絡が途絶え、清太は妹・節子とともに西宮の遠い親戚宅で世話になることになった。だが、おばさんの冷たい仕打ちに耐えられず、清太は節子連れ、その家を出て防空壕の中で二人だけの生活を始める。

日に日に悪化する戦況とともに、やせ細っていく節子。清太は、時折母の優しさ、父の厳しさ、つい数ヶ月前までの平和な生活を思い出しながら、妹を励まし、懸命に生きていこうとする。そして、日本は敗戦の日を迎えた。ホテルのように短く儂い兄妹の命は・・・。

「映画大学 in 京都」のお知らせ

昨年、姫路であった映画大学が、今年は、7 月 18 日から 20 日までの 3 日間、京都御所の近くの平安会館で開催されます。山田洋次(監督)、山田和夫(評論家)、部谷京子(美術監督)、山上徹二郎(プロデューサー)、伊藤千尋(ジャーナリスト)、二宮厚美(経済学者)、坂田雅子(Film maker)、山内智也(映像科学研究者)の講師陣による講義をはじめ、試写会や交流会が行われます。

参加希望の方は、加古川シネマクラブを通して申し込みれば、加盟団体会員の割引の参加費となりますので、電話やメールなどで申し込んでください。

3 日間宿泊の場合 3 万 9 千円、宿泊なし 1 日参加の場合 7 千円または 1 万円などです。

6 月の映画に思うこと

5 月の後半は、新型インフルエンザ騒動で、県内の映画館は、まさしく閑古鳥が鳴く状態に陥っていた。6 月になって、しだいに客足も戻ってきたが、今でもときどきマスクをした観客の姿を見かけると、あの騒動やウィルスのことを思い出す。例年と比べると映画館は空いている。

さて、毎年、梅雨の季節になると映画館によく行

くようになる。雨が続くので、他のレジャーをしないからだと思っていたが、今年のように雨の日が少なくても、映画館に足を運んでいる。これは、3 月と 4 月は春休み、5 月はゴールデンウィーク、7 月と 8 月は夏休みと、映画館では、子ども向けのアニメ作品を多く上映しているの、その他は、大手の配給会社が力を入れている大作くらいしか上映されなくなってしまうからだ。しかし、6 月だけは、その間隙で、短期間で多くの作品が上映される、まるで映画祭のような時期である。

地味で渋い作品、無国籍の B 級アクション映画、国内外の高品質な C G 映画、C G を使わず現地ロケに拘った日本映画・・・、実に多様でイイカンジである。

県内では、ミニシアターの閉館が続いている。このことが残念に思うなら、今のうちに残したい映画館には通うようにしよう。(ハインリッヒ)

前回例会の報告

5 月 26 日の例会では、『ココシリ』を鑑賞しました。新型インフルエンザ騒動の真っ只中、誰も来ないのではないかと心配しましたが、106 人の参加がありました。

アンケートの感想も多く記され、「チベットの奥でこんなショッキングな事件があったことを知ったこと」、「厳しい自然とその中に生きる人間の映像が良かった」、「命がけの集団の活動に感銘を受けた」などという感想とともに、いつも以上に作品選定に対する高い評価をいただきました。

上映会のお礼

6 月 14 日に兵庫県映画センターとの共催の形で『旭山動物園物語』の上映会が加古川市民会館で開催され、予想よりやや少なかったですが 500 人余りの入場者があり、関係の皆さまのご協力により無事に終了しました。ありがとうございました。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200~300 字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数 153 人(5 月 26 日現在)